

第9講座 古文(1)

■ 要点のまとめ ■

(1) 歴史的かなづかいのきまり (現代かなづかいに直すときの注意)

① 原則として、語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は、それぞれ「わ・い・う・え・お」となる。

・かは↓かわ (川) ・あひだ↓あいだ (間)

・あふ↓あう (会う) ・うへ↓うえ (上) ・かほ↓かお (顔)

〈注〉ただし、複合語の場合は除く。 あさ+ひ↓あさひ

② 「ぢ・づ・ゐ・ゑ」は、それぞれ「じ・ず・い・え」となる。

・いづれ↓いずれ ・まゐる↓まいる (参る) ・ゆゑ↓ゆえ (故)

③ 「かふ(かう)・さふ(さう)・たふ(たう)」などは、それぞれ「こ・う・そう・とう」となる。

(2) 言葉の意味と形 (古語)

① 現代語にはない言葉

・いと⇨たいそう。

・いみじ⇨非常に。

・つきづきし⇨ふさわしい。 など

② 現代語と形が似ているが意味の異なる言葉

・あはれなり⇨情趣が深い。

・ありがたし⇨めったにない。

・かなし⇨いとしい。 かわいい。

・ののしる⇨騒ぐ。

・やがて⇨すぐに。

・をかし⇨趣がある。 など

助詞

(1) 次の——線部の漢字の読み

をひらがなで書きなさい。

① 大事に扱う。

② 患者を診察する。

③ 欠陥商品を回収する。

④ 雑誌に掲載される。

⑤ 事件の発端を。

⑥ 水道の蛇口をひねる。

(2) 次の——線部の助詞の種類

をあとから選びなさい。

① 父に聞けばわかるよ。

② 私も一緒にいきます。

③ みんな教室に集まった。

④ だれにも言うな。

ア 格助詞 イ 接続助詞

ウ 副助詞 エ 終助詞

(3) 次の——線部の助詞の意味

をあとから選びなさい。

① 「賛成です」と答える。

② 廊下は走るな。

③ 大雨で川が増水する。

④ 今年こそそがんばろう。

ア 引用 イ 強調

ウ 理由 エ 禁止

① () ② ()
③ () ④ ()

★印は、単元内容に特に関連する問題です。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いと寒きに、火など急ぎおこして炭もて渡るもいとつきづきしと、清少納言の書かれたる、げにさることにて、冬はただこれのみぞ、客人のもてなしにもなりぬべき。雪のおもしろうふりつもりたる日、かねてちぎりし人を訪ふに、思ひしごとく、表座敷よくはらひて、すだれ高くまきあげたるいとをかし。大きな火桶の、よきほどに埋める火に、やがてさしむかひたる心地、いみじううれしく、あるじの深き心も思ひ知られぬ。今もうち散るを見つつ、物語などするほどに、なほつがんとて取り出でたる炭を、手づからつぐもをかしく、雪の寒さも忘れらる。

(中島広足 『檀園文集』)

★問一 線⑦「をかし」、①「さしむかひたる」、㊦「なほ」を現代かなづかいに直して書きなさい。

㊦ _____
① _____
㊦ _____

★問二 線a「げに」、b「おもしろう」、c「いみじう」の意味として最も適当なものをそれぞれのア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | | |
|---|---------|------------|
| a | ア 意外にも。 | イ 突然に。 |
| ウ | 本当に。 | エ 変に。 |
| b | ア たくさん。 | イ 不思議な様子で。 |
| ウ | 静かに。 | エ 趣深く。 |
| c | ア 非常に。 | イ いつも。 |
| ウ | 少しばかり。 | エ いつまでも。 |

★問三 線①「つきづきし」とありますが、どんな様子が「つきづき

し」というのですか。現代語で書きなさい。

問四 線②「客人のもてなしにもなりぬべき」とありますが、何が

「客人のもてなし」になるのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 雪 イ 表座敷 ウ 炭火 エ 書物

問五 線③「思ひしごとく」とありますが、だれが思ったのですか。

最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 客人 イ 清少納言 ウ あるじ エ 筆者

問六 線④「あるじの深き心」とありますが、どのような心ですか。

最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 客をせいっぱいもてなそうとする心。
イ 雪見をせいっぱい楽しみたいと思う心。
ウ 雪の寒さに耐えて春を待ち続ける心。

エ 昔の風流人のまねをしようとする心。

問七 線⑤「見つつ」とありますが、何のどのような様子を見ているのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア すだれからしづくが落ちる様子。
イ 火桶の灰がふわっと舞い散る様子。
ウ 炭の火がばちばちとはじける様子。
エ 雪がちらちら降る様子。

練習問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① めづらしきふみをえたらむには、親しきも疎きも、同じ志ならむ人には、
 ② かたみにやすく貸して、見せもし写させもして、世にひろくせまほしきわざなるを、人には見せず、おのれひとり見て、ほこらむとするは、
 ③ いと心ぎたなく、物まなぶ人のあるまじきことなり。

(本居宣長『玉勝間』)

★ 問一 線①「めづらしきふみをえたらむには」、②「かたみにやすく貸して」の意味として最も適当なものをそれぞれのア～エから選び、記号で答えなさい。

- ① ア 高貴な人に歌を書いてもらったときには。
- イ おかしな手紙を受け取ったときには。
- ウ めづらしい書物を手に入れたときには。
- エ 変わった形の文字を覚えたときには。
- ② ア となりの人には心やさしく貸して。
- イ 大したものではないという顔で貸して。
- ウ 少しでも安いねだんで貸して。
- エ お互いに気安く貸して。

問二 線③「物まなぶ人のあるまじきことなり」とありますが、どのようなことに対してこのように言っているのですか。それがわかる部分を、文中から書き抜きなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある時、夜更けて、樋口屋の門をたたきて、酢を買ひに来る人あり。
 *1 中戸を、奥へはかすかに聞えける。下男目を覚まし、「何程かの。」といふ。
 *3 「むつかしなから、一文がの。」といふ。空寝入りして、その後返事もせねば、是非なく帰りぬ。夜明けて、亭主はかの男呼びつけて、何の用もなきに、「門口三尺掘れ。」といふ。
 *6 御意に任せ、諸肌脱ぎて鋏を取り、堅地に気を尽し、身汗水なして、やうやう掘りける。その深さ三尺といふ時、「銭が有るはず、いまだ出ぬか。」といふ。
 *4 「小石、貝殻より外に、何も見えませぬ。」と申す。「それ程にしても、銭が一文ない事、よく心得て、重ねては一文商ひも大事にすべし。」
 *7 (井原西鶴『日本永代蔵』)

- *1 中戸を || 店と奥とを仕切る戸を隔てて。 *2 何程かの || どれほどですか。 *3 むつかしなから || ごめんどうですが。
- *4 文 || 昔の貨幣の単位。一文は少額。 *5 亭主 || 店の主人。
- *6 三尺 || 約一メートル。 *7 重ねては || これからは。

問一 線①「空寝入りして、その後返事もせねば」とありますが、なぜこのようにしたのですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 夜更けに酢を買ひに来た客を、どろぼうだと思って恐ろしくなつたから。
- イ 夜更けに、たった一文の商売のために店を開けるのはめんどうだったから。
- ウ 夜更けに、たった一文の商売のために主人を起こすのを遠慮し

たから。

工 夜更けに来た客の姿が、暗闇くらやみでよく見え、いたずら
だと思ったから。

★問二 — 線②「是非なく帰りぬ」の意味として最も適当なものを次の
うちから選び、記号で答えなさい。

ア 仕方なく帰った。 イ どうしても帰らない。

ウ 喜んで帰った。 エ 怒おこって帰らない。

★問三 — 線③「やうやう」を現代かなづかいに直して書きなさい。

問四 — 線④「それ」が指しているのは、どのようなことですか。最
も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア やつとのもので掘った穴に、やつぱり銭が一文もなかったこと。

イ 主人が何の用もないのに、三尺掘れと下男に命じたこと。

ウ 一心に汗水たらして、やつと地面を三尺掘ったこと。

エ 空寝入りして、返事をしようとしなかったこと。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

藤次郎とうじらうといふ者、外に出いでしとき、犬の子の、はなはだ愛らしきを見
て、もらひて帰り、家に飼かふ。この犬、その親犬の居所きょしょに、夜よごとに行
きてそのかたはらに伏ふす。魚肉など得たるときは、口くちにふくみて持ち行
き、親犬おやいぬに与あたふ。その道のほど、およそ三町*1あまりなり。藤次郎、大い
に驚おどろき感じけるが、たはぶれに犬を叱しかりて、「人の家ひとのかに犬を飼ふことは夜よ
を守らしめんためなり。しかるに汝*2、わが家に養やしなはれながら、夜よごとに
外そとにありて、おのれが職しやくをつとめざるこそ不忠ふちゆうなれ」と言いひけるに、そ
の夜よより、隔夜かくやに、主人の家しゆじんのかと親の飼かはれし家いへに伏ふしけり。

*1 町 || 距離きょりの単位。一町は約一〇九メートル。 *2 汝 || おまえ。

(中村新齋『思齋漫録』)

★問一 — 線①「もらひて」を現代かなづかいに直して書きなさい。

問二 — 線②「おのれが職」とありますが、「職」の内容を現代語で十
五字以内で書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問三 — 線③「伏しけり」の動作主を次のうちから選び、記号で答え
なさい。

ア 子犬 イ 親犬

ウ 子犬と親犬 エ 藤次郎

問四 この文章の内容として最も適当なものを次のうちから選び、記号
で答えなさい。

ア 藤次郎は、自分になつかない子犬の心をつかみたいと思い、ご
ちそうを食くべさせて手なずけようとした。

イ 子犬は、藤次郎の家を出るときにはきまって食べ物を親の居所
へ持って行き、親といっしょに寝た。

ウ 子犬は、藤次郎の言葉が理解できたのか、親を思う心だけでは
なく飼かい主への誠意も示すようになった。

エ 藤次郎は、自分が望んでいたとおり、子犬が親よりも
飼かい主の方を大切にしようになったので喜んだ。